

南の風 548

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の守備の局面（ハーフコートディフェンス）の続きです

原則④有利なときにはミス进行誘う

▶シュート機会を減らす

「原則②有利なときは手間をかけずにダイレクトにボールへプレッシャーをかける」ことを狙ってミスを誘い、相手のシュート機会を減らすようにします。プレッシャーとは相手の嫌がることをすることです。相手にとって何が嫌なのか、感情と意図を読むことが鍵になります。相手の感情や意図を読もうとすることが「仕掛け」を見つける鍵になります。例えば、ボールマンが慌てていて、（感情）「ドリブルで何とか突破したい」という意図が読み取れるのであれば、トラップを仕掛けるチャンスです。

原則⑤チームでリバウンドを確保する

▶シュート機会を減らす

相手にオフェンスリバウンドを取られて攻撃権を与えるということは、PPP（ポイントパーポゼッション）が仮に1点だとすると、相手に1点を与えていることと同じ意味になると理解しましょう。

勝利するためには、リバウンドの獲得は必要条件です。そのことをチーム全員に理解させるようにします。プレーヤー全員がステップアウトして正しく強くコンタクトでき、またルーズボールに反応できるように強化していくようにしてください。ボックスアウトせずにファストブレイクを狙って走ろうとした結果、相手にオフェンスリバウンドを許すことが無いように指導することが重要です。

原則⑥相手のチャンスやシュートの機会そのものを減らす

▶シュートの機会を減らす

この原則を達成するためには、ターンオーバーを誘って攻撃権を失わせることと、セカンドチャンスを与えない（オフェンスリバウンドを取らせない）ことです。この2つのポイントを果たすことで相手のシュート機会を減らすことができます。

▶相手の感情を読む

ターンオーバーを誘うための目標はミスを誘う仕掛けを持ち、しつこくアタックすることです。ボールマンプレッシャーやディナイ、トラップなどがあります。それらを行うためには相手の感情を読む必要があります。がむしゃらに、むやみくもに間合いを詰めるだけでは、何回かミスを誘うことができても、徐々に対応されてしまいます。もう一度言います。プレッシャーとは相手の嫌がることをすることです。相手にとっては何が嫌なのか、感情と意図を読むことが鍵になります。

▶相手（オフェンス）のリバウンド獲得率（OR%）を25%以内に抑える

相手にセカンドチャンスを与えないための目標の一つは、シュートミスに対する相手のオフェンスリバウンドの獲得率（OR%）を25%以内に抑えることです。OR%は「相手のOR÷（自分のDR+相手のOR）」で計算できます。相手にOR%を30%以上取られると非常に不利になります。つまり、リバウンドは決して本数（回数）だけではないということです。

次号に続けます